

発表資料

2023年3月24日 「ジャパンサーチで地域のコンテンツをつなぎ、人をつなぐ」

地域資料の利活用とジャパンサーチ -沖縄県南城市の取り組み-

南城市教育委員会文化課
田村卓也 (デジタルアーカイブ専門員)



なんじょうデジタルアーカイブ

Nanjo Digital Archives

<https://nanjo-archive.jp/>



この資料は、ロゴを除き、[クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/)の下に提供されています。



1. 南城市について

- ・2006年に4町村が合併して誕生した市。人口およそ4.5万人。
- ・市内には、世界遺産「斎場御嶽」をはじめ、数多くの有形・無形の文化財がある。



斎場御嶽



糸数城(国史跡)





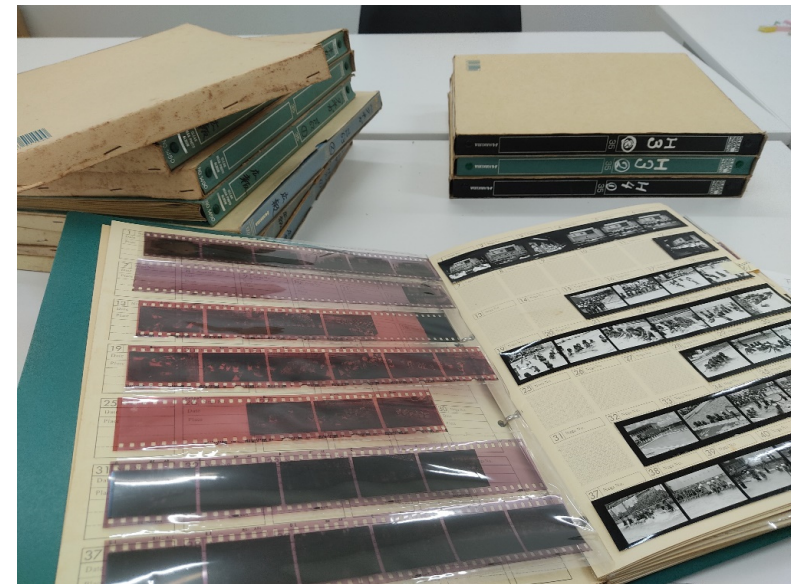
2. デジタルアーカイブ事業のスタート(1)

- ・豊富な文化財があるものの、南城市にはその価値や魅力を発信する拠点施設がなく、十分な活用ができていない状況にあった。
- ・2017年、教育委員会のなかで観光振興や地域振興にも貢献できるような、デジタルコンテンツの制作が提案された。当初想定されていたのは、VRやARなどの先端技術を活用したもの。
- ・そうしたなか、専門家との議論をとおして見えてきたのは、「活用」の土台となるアーカイブを作ることの重要性。2018年に実施計画が策定され、地域にねざしたDAの構築という方向性が定まった。



2. デジタルアーカイブ事業のスタート(2)

- ・DAの構築にむけて、まず取り組んだのが資料状態の確認と目録の作成。
- ・目録をもとに、2020年度より資料のデジタル化を開始。予算や人員の制約があるため、劣化の激しい資料から優先的にデジタル化。
- ・デジタル化と同時に資料管理システムの整備と、Webページの構築も進め、2021年3月に「なんじょうデジタルアーカイブ」(通称、なんデジ)をリリース。当初の公開資料数は約1,000点。





3. なんデジで扱う資料

南城市の歴史や文化に関する資料(写真・動画・音声・紙資料・3Dモデル)
次年度公開予定

タイプ 市(あるいは旧町村)が所蔵する資料

広報/市町村史関係資料/文化財(明治時代の地籍図、古文書など)/戦災調査資料/発掘調査関係資料 など

タイプ あらたに撮影・作成した資料

コロナ禍の庁舎内・地域行事の様子 など

タイプ 地域/利用者から提供してもらった資料



4. 地域からの資料収集

古写真トークイベント (2014年～)

公民館や個人が所有する写真をデジタル化。後日鑑賞会を開き、集まってもらった住民に、当時の記憶や思い出を自由に語ってもらう。収集した情報や写真は「なんデジ」で公開。



公民館にスキャナを持ち込みデジタル化



これまで市内27カ所でイベントを開催



5. 集めた資料の活用(1)

教育における活用

- ・2023年度、琉球大学の民俗学ゼミが、実習の一環として古写真を用いたフィールドワークを実施。その成果をまとめたレポートを「なんデジ」で公開中。
- ・教育分野におけるDAの活用は重要な課題。今後は小中学校にも対象をひろげ、効果的な活用方法を模索していきたい。



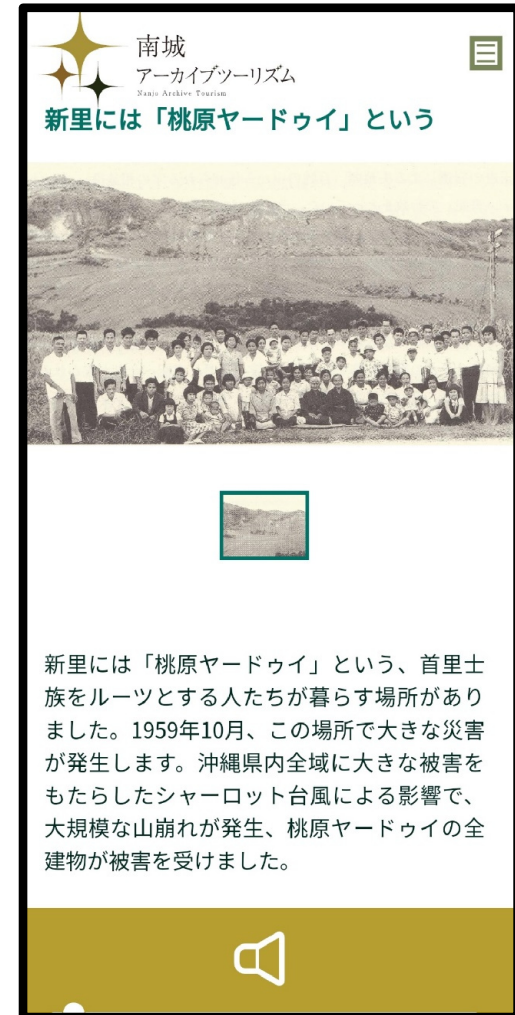
区長さんの案内で集落を歩く学生たち



5. 集めた資料の活用(2)

観光における活用

- ・市内各所にQRコードを設置。写真が撮られたその場所で、当時のエピソードを楽しむことができる観光コンテンツ。
- ・現在、200点の写真や映像を公開中。一部には、日本語・英語・中国語のナレーションも搭載されている。





6. ジャパンサーチとの連携(1)

DAの運営をとおして見えてきた課題

デジタル化した資料を機械的に公開していただくだけでは、利用者は増えない。
人びとの興味関心を引き寄せる工夫が重要

資料を利用した特集記事や動画を作成し、市の歴史や文化を紹介
週1回、あたらしい資料を公開していく

多様な資料を提供する(地域・時代・分野が偏らないように意識する)

積極的な情報発信 各種SNSの活用、ジャパンサーチとの連携



6. ジャパンサーチとの連携(2)

- ・資料情報の発信能力を強化し、「なんデジ」の利用者を増やす方法を模索するなかで、ジャパンサーチとの連携にたどり着いた。
- ・利用しているクラウド型システムがデータ出力に対応していたため、連携に向けた実作業は1週間程度で完了。
- ・「なんデジ」の公開開始から半年後、2021年10月にジャパンサーチとの連携がスタート。



7. 利用される資料の違い

- ・アクセス解析によると、「なんデジ」HPでは新規公開した資料の利用が中心。検索機能を使って資料をさがす人は、残念ながらあまり多くない。なかには1回も利用されていない資料も。
 - ・いっぽう、ジャパンサーチでは、「なんデジ」HP上でほとんど利用されていない資料へのアクセスがある。
- デジタル化資料の死蔵化回避
という、思いがけないメリット



三線(B000003419)



サトウキビ畑(B000022635)



8 . ギャラリーの活用

- ・南城市の歴史や文化に興味をもってもらうため、これまでに2つのギャラリーを作成。
- ・作成したギャラリー(斎場御嶽、久高島の歴史と文化)は、「なんデジ」HPで公開している特集記事や映像作品をベースとしたもの。
- ・「久高島の歴史と文化」では、ほかの連携機関が公開している資料も引用してギャラリーを構成。
- ・今後は、異なるタイプのギャラリーを増やし、そこから「なんデジ」HPを訪問する人の数を増やしたい。



9. 今後の課題と期待

- ・ジャパンサーチと「なんデジ」HPのつながりを強化する
ジャパンサーチの利用者にも、HPの多様なコンテンツに触れてもらう
- ・アーカイブツールリズムや教育プログラムとジャパンサーチをつなげる
DA利活用の幅をひろげることができる
- ・地域のデジタルアーカイブがつながる
ノウハウの共有、資料の価値を高めあうことができる